



地方独立行政法人

佐賀県医療センター 好生館

SAGA-KEN MEDICAL CENTRE KOSEIKAN

SINCE 1834

リハビリテーションセンター

Rehabilitation Center

SAGA-KEN

MEDICAL CENTRE

KOSEIKAN

SINCE 1834

2020.9

理学療法部門 Physical Therapy

運動機能の回復を促し、生活活動につなげます

運動療法や物理療法を行い、失われた身体の基本的な機能を取り戻す治療法です。病気、けがはもとより、高齢や手術により体力が低下した方々に対して運動機能の回復を促し、日常生活動作の改善を図り、社会生活への復帰をサポートします。



作業療法部門 Occupational Therapy

作業を通じて生活活動の獲得を支援します

その人らしい主体的な生活の獲得を図るため、作業を通じて諸機能の回復、維持及び開発を促す治療、指導、援助のことです。運動や精神・認知等の機能障害の改善に加え、食事や排泄等の日常生活活動(ADL)の支援や、家庭に復帰するために必要な調理や洗濯・掃除等の家事動作や職場復帰の支援を行います。



言語療法部門 Speech Therapy

話す、聞く、食べるを支援します

脳の病気で思うようにことばが思い出せない、発音が不明瞭になる、ことばの発達の遅れ、日常生活上の聴こえにくさなどのコミュニケーション障害に対する支援、食事が上手く飲み込めない嚥下障害に対する支援を行います。



私たちリハビリテーション専門職は、過度の安静による廃用症候群を予防し早期離床を促し、心身機能に対する機能回復訓練のみでなく、早期の生活活動の再建と社会参加にも焦点をあてながら、その人らしい生活を送れるよう、日々活動しております。対象となる疾患ごとに、スタッフを脳血管、運動器／がん、呼吸／循環の3つの診療ユニットに分け、それぞれのユニットで多職種によるチームアプローチの推進に取り組んでおり、より専門性の高いリハビリテーションの提供を目指しています。

リハビリ技士長
片瀬 宏輔



リハビリテーションセンター

Rehabilitation Center

その人らしい生活を
支えるために。

当館は佐賀県の急性期基幹病院であり、リハビリテーションセンターでは、リハビリテーションを疾患の急性期治療と同時に進めることにより、合併症や廃用症候群を予防して、患者さんをより高い機能で次の段階に引き継ぎ、早期に社会復帰させることを目標としています。急性期の不安定な患者さんに対して安全に早期のリハビリテーションを行えるように、リハビリテーション医の指示のもとに、療法士は正確な患者さんの状態評価、リスク管理ができる知識と技術の習得を目指しています。医師、看護師、栄養士、薬剤師、ソーシャルケースワーカー等との多職種カンファレンスや回診を通して連携を図り、チーム医療の実践に努めています。また、地域連携パスを運用して地域におけるリハビリテーション連携にも積極的に取り組んでいます。最近では、がんリハビリテーション、病棟専属の療法士の配置、ロボットスーツを使用した歩行訓練も開始しています。

リハビリテーションセンター長
高島 洋



ひと昔前まで、当館のように救急車が来る病院では、リハビリはあまり行われていませんでした。しかし時代は変わりました。現在では、入院してすぐにリハビリテーションを始めて、できるだけ寝たきりにならないようにすることが常識となっています。当館では、必要な患者さんにはできるだけ多くの時間を割いて訓練を行い、佐賀県民の平均寿命はもちろんのこと、健康寿命を伸ばすため、寝たきりの人を1人でも減らすため、日々、診療を行っています。

リハビリテーション科 部長
山之内 直也



SAGA-KEN
MEDICAL CENTRE
KOSEIKAN
SINCE 1834



疾患別リハビリテーション

チームによる集中的かつ包括的なリハビリテーションを提供し、

「リハビリテーションセンター」の連携概念図



脳血管リハビリテーション

脳血管疾患や中枢神経系の疾患に対し、早期からの座位、立位、歩行訓練、失語症をはじめとした高次脳機能訓練、摂食・嚥下訓練、また食事や排泄などの日常生活動作訓練、家庭に復帰するために必要な調理や洗濯、掃除などの家事動作の支援を行います。運動麻痺に対しては、装具療法、機能的電気刺激療法、リハビリテーション支援機器などで機能回復や代償を図り、より効果的なリハビリを行います。脳卒中ケアユニット(SCU)では、脳卒中患者に対し、専門病床で専門の医療職がチームを構成し、計画的に急性期医療ならびにリハビリテーションを行っています。



心大血管疾患リハビリテーション

心臓の病気で入院し治療又は、手術を受けられた患者さんを対象に運動方法、栄養管理、服薬管理、メンタルケア、生活指導をさまざまな専門職からなるチームとして提供し、患者さんの生活の質の向上、社会復帰、心臓の病気の悪化による再入院の予防によりQOLの向上を目指します。



運動器疾患リハビリテーション

骨・関節や、脊椎、神経・筋肉などの運動器の疾患に対して、早期からの関節運動や筋力トレーニングをはじめとした運動療法や、痛みなどの症状に対する物理療法、機能障害に対する装具療法、自助具や福祉用具を使用した訓練、上肢機能障害における功緻動作訓練等を行い、二次的合併症の予防を行いながら日常生活動作の自立に向けた支援を行います。



がん患者リハビリテーション

がんは治療や原疾患の進行に伴い、体力低下、倦怠感の出現等により活動性が低下し、二次的障害が生じるため、進行を考慮したリハビリテーションが重要となります。そのため、カンファレンスを定期的開催するなど、チームとして今後の生活や社会参加も考慮したリハビリテーションを提供し、QOLの向上を目指します。



呼吸器疾患リハビリテーション

呼吸器疾患を持つ患者さんに対して、集中治療室での呼吸管理のサポートや全身管理、一般病棟での全身調整を含めた運動療法、日常生活や酸素療法に関する指導など包括的な取り組みを行うことで、全身持久力の向上、生活動作の改善により日常生活の質(QOL)の向上を目指します。



■ 摂食機能療法

脳血管障害や加齢等によって食物を飲み込むことが困難になることを「嚥下障害」といい、誤嚥性肺炎の原因にもなるため、その対策が重要です。当院ではリハビリテーション専門医による嚥下内視鏡検査(VE)や嚥下造影検査(VF)により嚥下機能を評価し、看護師、管理栄養士、言語聴覚士、理学・作業療法士等の多職種による嚥下リハビリテーションに取り組んでいます。

■ 歩行運動処置(ロボットスーツによるもの)

ロボットスーツHAL®医療用下肢タイプを導入し、保険適用となる神経・筋難病疾患に対して、歩行機能改善を目指した訓練を行っています。HAL®は、身体に装着することによって、「立つ」や「歩く」等の機能を改善する治療ロボット機器です。より自立したその人らしい生活を送れるように、患者さんの「歩きたい」という想いに応えていきます。

■ ADL維持向上等体制加算

病棟に理学療法士等のリハビリテーション専門職を専従配置し、過度の安静による廃用症候群や合併症を予防し、ADL(日常生活動作)を維持または向上させ、早期に転退院支援につながるような取り組みを行っています。現在は7階西病棟に配置しており、病棟スタッフ等との多職種によるチーム医療を推進しています。

■ 早期離床・リハビリテーション加算

特定集中治療室(ICU)に専任の理学療法士を配置し、患者に関わる医師、看護師、臨床工学技士等の多職種と早期離床・リハビリテーションに係るチームによる総合的な離床の取り組みを行っています。早期に離床を促し、廃用症候群や重症化を予防し、日常生活活動の回復を支援することで、一日も早い退院・社会参加を目指します。



医療チーム

リハビリテーション医療を通じ、患者さんの自立とQOL(生活の質)の向上を最大限援助します。

リハビリテーションセンター

- リハビリテーションセンター長
- リハビリテーション科部長
- リハビリ技士長
 - 脳血管ユニット
 - 運動器/がんユニット
 - 呼吸/循環器ユニット



● 理念・方針

□〔基本理念〕

□ リハビリテーション医療を通じ、患者さんの自立とQOL(生活の質)の向上を最大限援助します。

〔基本方針〕

1. 良質で安全な急性期リハビリテーションの提供
発症や術後早期の機能回復を図り、科学的根拠に基づいた効果的で質の高いリハビリテーションの提供を目指します。
2. 専門性を活かしたチーム医療の提供
理学療法士、作業療法士、言語聴覚士がそれぞれの専門性を活かし、各診療科や病棟スタッフと情報共有しながら、患者本位の協業を目指します。
3. 地域関連施設との円滑な連携
患者さんが地域社会の中で安全に生き生きとした生活が送れるよう、地域の医療や福祉に係わる多職種の方々との円滑な連携を目指します。

● 施設基準

脳血管疾患リハビリテーション料(1)
運動器疾患リハビリテーション料(1)
呼吸器疾患リハビリテーション料(1)
心大血管疾患リハビリテーション料(1)
廃用症候群リハビリテーション料(1)

がん患者リハビリテーション料
摂食機能療法
歩行運動処置(ロボットスーツによるもの)
ADL維持向上等体制加算
早期離床・リハビリテーション加算

地方独立行政法人 佐賀県医療センター好生館

〒840-8571 佐賀市嘉瀬町大字中原400番地

TEL 0952-24-2171(代) FAX 0952-29-9390



詳しくはホームページをご確認下さい

好生館

検索